

第3回21世紀成年者縦断調査 （国民の生活に関する継続調査）結果の概況

目次

調査の概要	1 頁
結果の概要	
Ⅰ 結婚の状況	3
1 この2年間の独身者の結婚の状況	3
2 仕事をしていた女性の結婚後の就業継続の有無	6
Ⅱ 夫婦における子どもの出生の状況	8
1 この2年間の出生の状況	8
2 夫の状況の変化（第1回から第2回）とこの1年間の出生の状況	12
3 子どもが生まれた夫婦の出生前後の変化	14
4 仕事をしていた妻の出産後の就業継続の有無	16
Ⅲ 独身者の就業の状況	19
参考	22
用語の定義	23

第3回21世紀成年者縦断調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス (<http://www.mhlw.go.jp/>)

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、調査対象となった男女の結婚、出産、就業等の実態及び意識の経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的として、平成14年を初年として実施しているものである。

2 調査の対象及び客体

平成14年10月末時点で20～34歳であった全国の男女（及びその配偶者）を対象とし、そのうち、第2回調査において協力を得られた者等（及びその配偶者）を客体とした。

3 調査の実施日

平成16年11月 4日（木）

4 調査の事項

- (1) 女性票 …… 仕事の有無、就業形態、就業時間、親との同居の有無、配偶者の有無、仕事と子育ての両立支援制度、希望子ども数、子どもの状況等
- (2) 男性票 …… 仕事の有無、就業形態、就業時間、親との同居の有無、配偶者の有無、家事・育児時間、希望子ども数等
- (3) 配偶者票（女性用） …… 仕事の有無、就業形態、就業時間、仕事と子育ての両立支援制度、希望子ども数、子どもの状況等
- (4) 配偶者票（男性用） …… 仕事の有無、就業形態、就業時間、家事・育児時間、希望子ども数等

5 調査の方法

- (1) 調査員があらかじめ配布した調査票に被調査者が自ら記入し、密封したものを後日調査員が回収する方法により行った。
- (2) 第1回調査以降に転出した者は、厚生労働省から郵送された調査票に被調査者が自ら記入し、郵送により厚生労働省に提出する方法により行った。

6 調査の系統

- (1) 厚生労働省——都道府県——保健所——調査員——被調査者
 └──保健所設置市──┘
 特別区
- (2) 厚生労働省——被調査者
 郵送

7 結果の集計及び集計客体

結果の集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。

調査客体数、回収客体数、集計客体数は次のとおりであった。

なお、本概況における集計客体数とは、調査客体となって以降、継続して集計可能である客体をいう。

調査票の種類	調査客体数	回収客体数	集計客体数
女性票	12,899	11,083	9,664
男性票	12,431	10,480	9,152
配偶者票（女性用）	737	645	292
配偶者票（男性用）	1,976	1,801	1,255
計	28,043	24,009	20,363

また、集計客体数の内訳は以下のとおりである。

	女性票	男性票	配偶者票 （女性用）	配偶者票 （男性用）
第1回の独身者 第1回調査で独身であった者	5,989	6,405	—	—
第1回からの夫婦 第1回調査から夫、妻ともに調査対象としている夫婦	3,675	2,747	183	1,111
第2回からの夫婦 第1回から第2回の間結婚し、第2回調査から夫、妻ともに調査対象としている夫婦	(145)	(110)	109	144
第1回からの独身者（この2年間、学校に在学していたことがある者を除く） 第1回調査から第3回調査まで独身であった者	(4,500)	(4,931)	—	—

注：（ ）内は、「第1回の独身者」に含まれる。

8 利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
統計項目のあり得ない場合	•

(2) この概況に掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) この概況に掲載の数値には、統計数が僅少のため利用する際に注意が必要なものが含まれる。

結果の概要

I 結婚の状況

1 この2年間の独身者の結婚の状況

(1) 結婚の状況

第1回の独身者は、この2年間で、男7.8%、女10.3%が結婚した。

第1回の独身者のうち、男は、この1年間で4.7%が結婚し、この2年間で結婚したのは7.8%となった。女は、この1年間で5.5%が結婚し、この2年間では10.3%となった。(表1)

表1 性、年齢階級別にみたこの2年間の結婚の状況

(単位：%)

		第1回配偶者の有無		この2年間の結婚の状況						
		総数	配偶者あり	配偶者なし	結婚した			結婚していない		
					1-2回間	2-3回間				
第1回(の年内は年齢階級第3回)	男	(100.0)	100.0	32.2	66.5	100.0	7.8	3.1	4.7	92.2
	20～24歳(22～26)	(28.6)	100.0	4.8	94.0	100.0	6.2	1.9	4.2	93.8
	25～29歳(27～31)	(33.7)	100.0	27.4	70.9	100.0	9.2	4.1	5.1	90.8
	30～34歳(32～36)	(37.7)	100.0	57.3	41.6	100.0	8.5	3.7	4.8	91.5
	女	(100.0)	100.0	41.2	57.9	100.0	10.3	4.7	5.5	89.7
	20～24歳(22～26)	(28.8)	100.0	6.3	92.9	100.0	7.0	2.8	4.2	93.0
	25～29歳(27～31)	(32.5)	100.0	38.3	61.0	100.0	14.4	6.8	7.6	85.6
	30～34歳(32～36)	(38.6)	100.0	69.8	29.2	100.0	10.8	5.8	5.0	89.2

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで回答を得られている者である。
2)「結婚した」には、この2年間に、結婚した後離婚した者を含む。
3)第1回配偶者の有無の総数には、配偶者の有無不詳を含む。

(2) 親との同居の有無別にみた状況

親との同居の有無による結婚の状況の違いは、あまりみられない。

第1回の独身者について、親との同居の有無(「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第2回同居の有無をいう)別に、この2年間の結婚の状況をみると、男女とも親との同居の有無で、あまり違いがみられない(表2)。

表2 性、親との同居の有無別にみたこの2年間の結婚の状況

(単位：%)

		総数		結婚した	結婚していない
親との同居の有無2)	男	(100.0)	100.0	7.8	92.2
	親と同居している	(72.6)	100.0	7.7	92.3
	親と同居していない	(27.4)	100.0	8.0	92.0
	女	(100.0)	100.0	10.3	89.7
	親と同居している	(79.1)	100.0	10.3	89.7
	親と同居していない	(20.9)	100.0	10.2	89.8

注：1)集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者である。
2)親との同居の有無は、「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第2回の状況である。
3)「親と同居している」とは、父母のうちいずれか1人でも同居している場合をいう。
4)「結婚した」には、この2年間に、結婚した後離婚した者を含む。
5)男、女には、親との同居の有無不詳を含む。

(3) 仕事の有無、一週間の就業時間別にみた状況

男性は、仕事が正規の場合 10.4%、非正規の場合 3.3%が、この2年間に結婚した。

第1回の独身者について、仕事の有無（「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第2回の仕事の有無をいう）別にこの2年間の結婚の状況をみると、男は「仕事あり」の 8.7%、「仕事なし」の 2.8%が結婚した。仕事ありのうち就業形態が「正規」では 10.4%、「非正規」では 3.3%が結婚した。

また、女は、「仕事あり」の 10.6%、「仕事なし」の 7.7%が結婚した。（表3）

表3 性、仕事の有無別にみたこの2年間の結婚の状況

(単位：%)

		第1回配偶者の有無 2)			この2年間の結婚の状況 (第1回独身者) 3)				
		総数	配偶者あり	配偶者なし	総数	結婚した	結婚していない		
仕事の有無 2)	男	(100.0)	100.0	32.2	66.5	(100.0)	100.0	7.8	92.2
	仕事あり	(84.2)	100.0	36.4	62.4	(83.1)	100.0	8.7	91.3
	(再掲) 正規	(52.7)	100.0	41.2	57.7	(46.7)	100.0	10.4	89.6
	(再掲) 非正規	(12.7)	100.0	8.3	90.2	(16.5)	100.0	3.3	96.7
	仕事なし	(12.9)	100.0	8.2	90.8	(16.7)	100.0	2.8	97.2
	女	(100.0)	100.0	41.2	57.9	(100.0)	100.0	10.3	89.7
	2) 仕事あり	(67.4)	100.0	28.8	70.4	(85.4)	100.0	10.6	89.4
	3) (再掲) 正規	(31.9)	100.0	20.1	79.2	(44.1)	100.0	11.5	88.5
	(再掲) 非正規	(26.3)	100.0	34.8	64.3	(28.9)	100.0	10.6	89.4
	仕事なし	(30.8)	100.0	68.8	30.2	(14.4)	100.0	7.7	92.3

- 注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで回答を得られている者である。
 2) 「第1回配偶者の有無」における「仕事の有無」は、第1回の状況である。
 3) 「この2年間の結婚の状況」における「仕事の有無」は、「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第2回の状況である。
 4) 「結婚した」には、この2年間に、結婚した後離婚した者を含む。
 5) 第1回配偶者の有無の総数には、配偶者の有無不詳を含む。
 6) 男、女には、仕事の有無不詳を含む。

さらに、仕事ありであった者について、一週間の就業時間別にこの2年間の結婚の状況をみると、男は、40時間以上が、40時間未満よりも「結婚した」の割合が高い(表4)。

表4 性、一週間の就業時間別にみたこの2年間の結婚の状況

(単位：%)

		総数	結婚した	結婚していない	
一週間の就業時間 2)	男	(100.0)	100.0	8.7	91.3
	1 5時間未満	(8.6)	100.0	5.0	95.0
	1 5～3 4時間	(6.7)	100.0	3.4	96.6
	3 5～3 9時間	(3.8)	100.0	5.9	94.1
	4 0～4 8時間	(40.4)	100.0	10.0	90.0
	4 9～5 9時間	(14.0)	100.0	9.4	90.6
	6 0時間以上	(13.4)	100.0	12.2	87.8
	女	(100.0)	100.0	10.6	89.4
	1 5時間未満	(9.5)	100.0	10.1	89.9
	1 5～3 4時間	(9.6)	100.0	7.6	92.4
	3 5～3 9時間	(9.3)	100.0	13.8	86.2
	4 0～4 8時間	(44.7)	100.0	11.2	88.8
	4 9～5 9時間	(9.8)	100.0	8.4	91.6
6 0時間以上	(4.6)	100.0	10.6	89.4	

- 注：1) 集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者で、「結婚した」は結婚前に仕事ありの者、「結婚していない」は第2回に仕事ありの者である。
 2) 一週間の就業時間は、「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第2回の状況である。
 3) 「結婚した」には、この2年間に、結婚した後離婚した者を含む。
 4) 男、女には、一週間の就業時間不詳を含む。

(4) 結婚の状況別にみた就業状況の変化

男の82.7%、女の47.8%が、結婚後も同一就業を継続している。

第1回の独身者について、この2年間の結婚の状況別に就業状況の変化をみると、結婚した場合の結婚前後の「同一就業継続」は男82.7%、女47.8%、結婚していない場合のこの1年間の「同一就業継続」は男69.4%、女68.9%となっている。

また、結婚の状況にかかわらず、男女ともに、年齢階級が高くなるに従って、「同一就業継続」の割合が多くなっている。(表5、図1)

表5 性、この2年間の結婚の状況、年齢階級別にみた就業状況の変化

(単位：%)

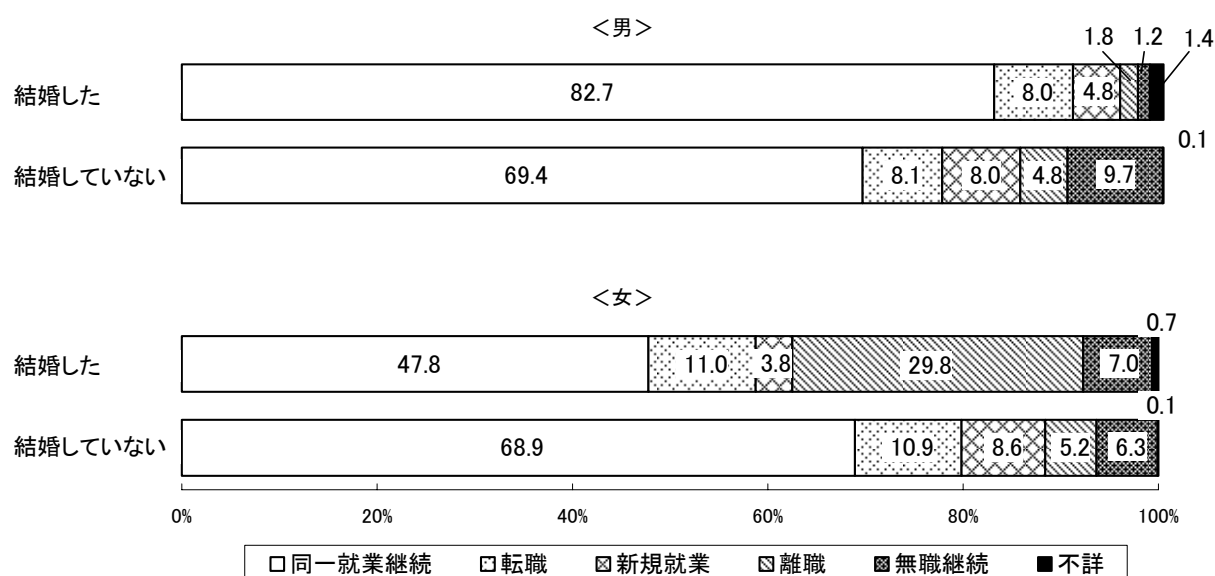
	総数	同一就業継続			転職			新規就業	離職	無職継続	不詳	
		(再掲)正規	(再掲)非正規		(再掲)正規から非正規	(再掲)非正規から正規						
男	結婚した	100.0	82.7	57.6	5.0	8.0	-	0.4	4.8	1.8	1.2	1.4
	21～25歳	24.3	100.0	70.2	42.1	5.0	13.2	-	1.7	9.9	2.5	1.7
	26～30歳	46.6	100.0	85.8	63.8	5.6	7.3	-	-	2.6	1.7	0.9
	31～35歳	26.3	100.0	88.5	60.3	4.6	4.6	-	-	4.6	0.8	0.8
	結婚していない	100.0	69.4	41.6	10.6	8.1	0.5	1.3	8.0	4.8	9.7	0.1
	21～25歳	33.8	100.0	54.5	28.4	15.3	11.2	0.7	2.4	13.3	6.9	14.1
	26～30歳	36.1	100.0	75.2	46.3	9.2	7.3	0.5	1.2	6.4	3.9	7.1
	31～35歳	26.3	100.0	78.7	50.1	7.0	5.9	0.4	0.4	3.8	3.8	7.7
女	結婚した	100.0	47.8	28.6	12.4	11.0	2.6	0.3	3.8	29.8	7.0	0.7
	21～25歳	25.5	100.0	36.5	25.0	9.0	11.5	2.6	-	4.5	35.9	10.3
	26～30歳	50.1	100.0	49.7	30.7	11.4	10.8	2.3	0.3	3.3	29.1	6.5
	31～35歳	23.4	100.0	55.9	29.4	18.2	10.5	2.8	0.7	4.2	24.5	4.9
	結婚していない	100.0	68.9	39.2	19.2	10.9	1.1	2.2	8.6	5.2	6.3	0.1
	21～25歳	39.2	100.0	60.8	34.2	18.1	14.5	1.2	3.8	12.0	5.4	7.2
	26～30歳	35.8	100.0	72.9	41.4	19.1	9.8	1.1	1.2	6.7	5.6	4.9
	31～35歳	22.3	100.0	76.1	43.5	21.6	6.8	0.5	1.0	6.1	4.3	6.7

注：1) 集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者である。ただし、調査と調査の間に結婚及び離婚した者を除く。

2) 年齢は、「結婚した」は結婚後の年齢、「結婚していない」は第3回の年齢である。

3) 結婚した、結婚していないには、年齢階級36歳以上を含む。

図1 性、この2年間の結婚の状況別にみた就業状況の変化



注：集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者である。ただし、調査と調査の間に結婚及び離婚した者を除く

2 仕事をしてきた女性の結婚後の就業継続の有無

(1) 就業継続の有無

女性は、仕事が正規の場合 57.6%、非正規の場合 42.0%が、結婚後も同一就業を継続している。

第1回に独身でこの2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性について、結婚前後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」は 54.0%であり、年齢階級が高くなるに従って、「同一就業継続」の割合が高くなっている。

また、就業形態別にみると、「正規」では 57.6%、「非正規」では 42.0%が「同一就業継続」となっている。

年齢階級別にみると、正規・非正規ともに、年齢階級が低くなるに従って、「離職」の割合が高くなっており、「非正規」の 21～25 歳では、「離職」が半数以上となっている。(表 6、図 2)

表 6 年齢階級別にみた就業継続の有無

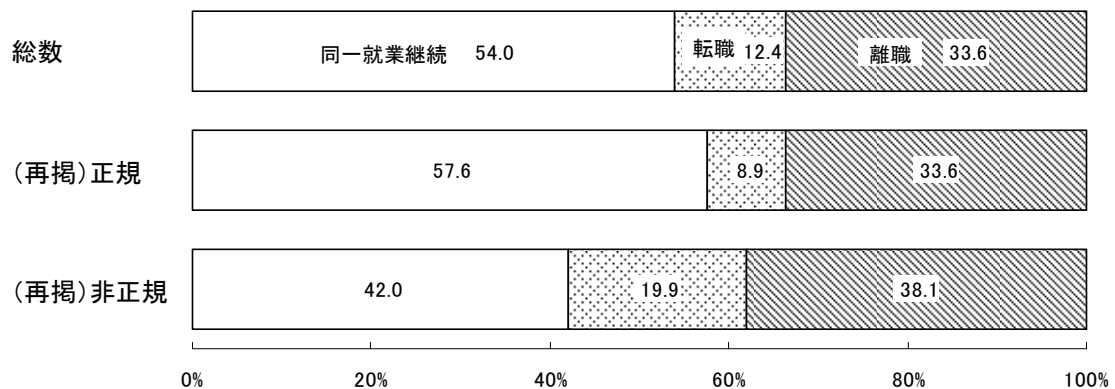
(単位：%)

	総数	同一就業継続	転職		離職			
			(再掲) 正規へ	(再掲) 非正規へ				
結婚(再掲)後の年齢階級の正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	54.0	12.4	1.5	8.1	33.6
	21～25歳	(24.2)	100.0	43.5	13.7	2.3	9.2	42.7
	26～30歳	(50.6)	100.0	55.5	12.0	1.1	8.0	32.5
	31～35歳	(24.0)	100.0	61.5	11.5	1.5	6.9	26.9
	(再掲)正規	(100.0)	100.0	57.6	8.9	2.0	5.3	33.6
	21～25歳	(24.0)	100.0	53.4	9.6	4.1	5.5	37.0
	26～30歳	(53.0)	100.0	58.4	8.1	1.2	4.3	33.5
	31～35歳	(22.7)	100.0	60.9	8.7	1.4	5.8	30.4
	(再掲)非正規	(100.0)	100.0	42.0	19.9	1.1	14.9	38.1
	21～25歳	(27.6)	100.0	28.0	20.0	-	16.0	52.0
	26～30歳	(46.4)	100.0	41.7	21.4	1.2	16.7	36.9
	31～35歳	(24.9)	100.0	57.8	17.8	2.2	11.1	24.4

注：1)集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られ、この2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚及び離婚した者を除く。

2)総数には、年齢階級36歳以上を含む。

図 2 就業継続の有無



注：1)集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られ、この2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性である。ただし、調査の間に結婚及び離婚した者を除く。

2)正規・非正規は、結婚前の状況である。

(2) 2年前の家庭観別にみた状況

世帯の収入に関し、「夫妻いずれも同様に責任を持つ家庭」を築きたいと考えていた女性の60.0%が、結婚後も同一就業を継続している。

第1回独身でこの2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性について、第1回の家庭観別に就業継続の有無をみると、「同一就業継続」の割合は、世帯の収入に関して「夫が主として責任をもつ家庭」を築きたいと考えていた者では50.0%、「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」を築きたいと考えていた者では60.0%となっている。

家事に関しては、「妻が主として責任をもつ家庭」を築きたいと考えていた者の48.9%、「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」を築きたいと考えていた者の57.9%が「同一就業継続」となっている。(表7、図3)

表7 第1回の家庭観別にみた就業継続の有無

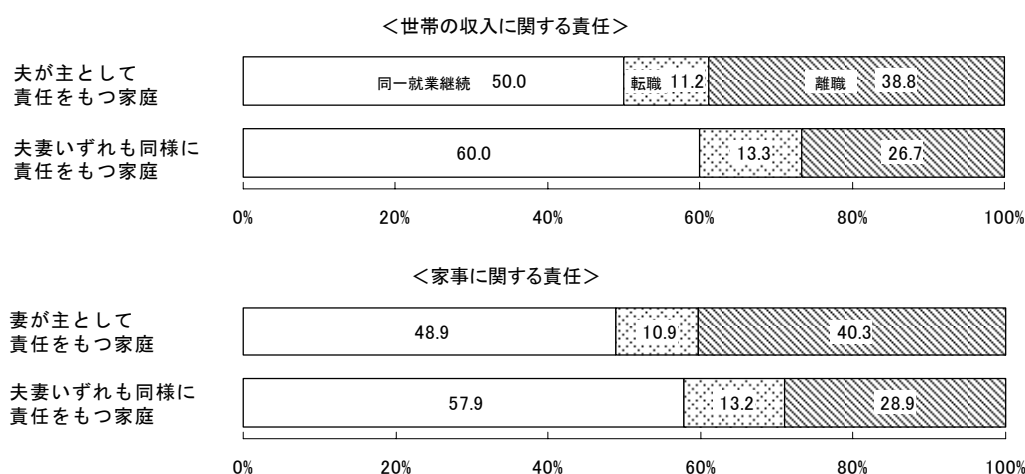
(単位：%)

	総数	同一就業継続	転職	(再掲)		離職		
				正規へ	非正規へ			
第1回の家庭観	<世帯の収入に関する責任>	(100.0)	100.0	54.4	12.2	1.5	7.9	33.4
	夫が主として責任をもつ家庭	(53.7)	100.0	50.0	11.2	0.7	8.4	38.8
	妻が主として責任をもつ家庭	(0.9)	100.0	80.0	-	-	-	20.0
	夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭	(39.4)	100.0	60.0	13.3	2.4	7.6	26.7
	わからない	(4.3)	100.0	43.5	21.7	4.3	8.7	34.8
	<家事に関する責任>	(100.0)	100.0	54.4	12.2	1.5	7.9	33.4
	夫が主として責任をもつ家庭	(0.4)	100.0	-	50.0	-	50.0	50.0
	妻が主として責任をもつ家庭	(41.5)	100.0	48.9	10.9	1.8	7.2	40.3
	夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭	(52.5)	100.0	57.9	13.2	1.4	8.6	28.9
	わからない	(3.6)	100.0	57.9	15.8	-	5.3	26.3

注：1) 集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られ、この2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性のうち、第1回の結婚意欲が「絶対したい」「なるべくしたい」「どちらとも言えない」「あまりしたくない」のいずれかの者である。ただし、調査と調査の間に結婚及び離婚した者を除く。

2) 世帯の収入に関する責任、家事に関する責任には、家庭観不詳を含む。

図3 第1回の家庭観別にみた就業継続の有無



注：集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られ、この2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性のうち、第1回の結婚意欲が「絶対したい」「なるべくしたい」「どちらとも言えない」「あまりしたくない」のいずれかの者である。ただし、調査と調査の間に結婚及び離婚した者を除く。

II 夫婦における子どもの出生の状況

1 この2年間の出生の状況

(1) 出生の状況

この2年間に、第1回からの夫婦の21.5%、第2回からの夫婦の29.9%に子どもが生まれた。

第1回からの夫婦、及び第2回からの夫婦について、この2年間の出生の状況をみると、第1回からの夫婦は、第1回から第2回間に11.4%、第2回から第3回間に10.5%、あわせて21.5%の夫婦に子どもが生まれ、第2回からの夫婦は、第2回から第3回間に29.9%の夫婦に子どもが生まれている(表8)。

表8 妻の年齢階級別にみたこの2年間の出生の状況

(単位：%)

	総数	この2年間に出生あり						この2年間に出生なし				
		第1回から第2回間			第2回から第3回間			子どもなし	子どもあり			
		第1子	第2子以降		第1子	第2子以降						
第3回妻の年齢階級												
第1回からの夫婦	(100.0) 100.0	21.5	11.4	3.4	8.0	10.5	2.4	8.1	78.5	12.3	66.1	
21～25歳	(2.2) 100.0	35.7	20.2	7.1	13.1	17.9	3.6	14.3	64.3	11.9	52.4	
26～30歳	(21.4) 100.0	33.1	16.1	6.2	9.9	17.4	5.2	12.2	66.9	12.5	54.5	
31～35歳	(57.7) 100.0	20.5	11.2	3.0	8.2	9.7	1.8	8.0	79.5	12.4	67.1	
36歳以上	(18.7) 100.0	9.8	5.8	1.2	4.6	4.1	0.8	3.3	90.2	11.9	78.3	
第2回からの夫婦	(100.0) 100.0	29.9	29.9	29.1	0.8	70.1	56.7	13.4	
20歳以下	(0.8) 100.0	-	-	-	-	100.0	-	100.0	
21～25歳	(17.3) 100.0	34.1	34.1	34.1	-	65.9	38.6	27.3	
26～30歳	(51.6) 100.0	31.3	31.3	30.5	0.8	68.7	58.0	10.7	
31～35歳	(27.2) 100.0	24.6	24.6	23.2	1.4	75.4	68.1	7.2	
36歳以上	(3.1) 100.0	37.5	37.5	37.5	-	62.5	50.0	12.5	

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回ともに双方から回答を得られている夫婦である。

2)「出生あり」には、夫、妻双方から回答を得る以前の出生を含まない。

(2) 2年前の子どもをもつ意欲別にみた状況

夫、妻ともに子どもがほしいと考えていた夫婦の42.4%に子どもが生まれた。

第1回からの夫婦について、第1回の夫及び妻の子どもを持つ意欲別に、この2年間の出生の状況を見ると、夫、妻ともに「ほしい」では42.4%、夫、妻ともに「ほしくない」では3.4%の夫婦に子どもが生まれている(表9)。

表9 第1回の夫及び妻の子どもをもつ意欲別にみたこの2年間の出生の状況

(単位：%)

	第1回の妻の意欲	第1回の妻の意欲		
		ほしい	どちらともいえない	ほしくない
第1回の2年間の意欲、出生の状況	ほしい	100.0	100.0	100.0
	出生あり	42.4	17.2	10.2
	出生なし	57.6	82.8	89.8
	どちらともいえない	100.0	100.0	100.0
	出生あり	19.9	6.9	2.9
	出生なし	80.1	93.1	97.1
	ほしくない	100.0	100.0	100.0
	出生あり	10.3	7.9	3.4
	出生なし	89.7	92.1	96.6

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦である。

2)「ほしい」は、「絶対欲しい」「欲しい」と回答した者を、「ほしくない」は、「あまり欲しくない」「絶対欲しくない」と回答した者を合算している。

(3) 出生の状況と妻の仕事の有無

第1子出生では56.5%、第2子以降出生では36.0%の妻が、子どもの出生前に仕事をしてきた。

第1回からの夫婦、及び第2回からの夫婦について、この2年間の出生の状況別に妻の仕事の有無をみると、「出生あり」では出生前に「仕事あり」42.4%、「仕事なし」56.4%となっている。

出生順位別にみると、「第1子」では「仕事あり」56.5%、「仕事なし」43.2%と「仕事あり」が多いが、「第2子以降」では「仕事あり」36.0%、「仕事なし」62.5%と逆転している。

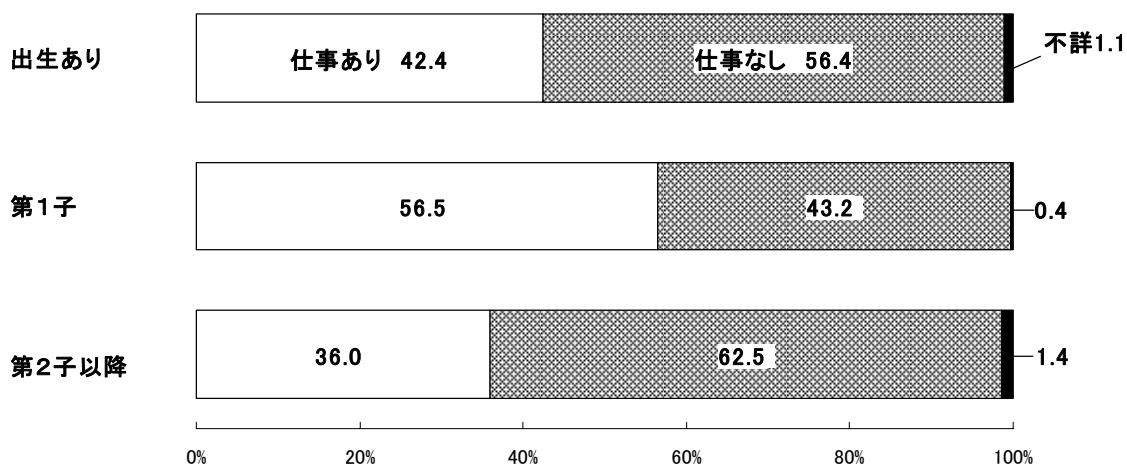
また、仕事の有無別にこの2年間の出生の状況をみると、「仕事あり」の18.3%、「仕事なし」の25.7%に子どもが生まれている。(表10、図4)

表10 この2年間の出生の状況と妻の仕事の有無

		この2年間の出生の状況							この2年間の出生の状況						
		総数	出生あり			出生なし			総数	出生あり			出生なし		
			総数	第1子	第2子以降	総数	子どもなし	子どもあり		総数	第1子	第2子以降	総数	子どもなし	子どもあり
妻の仕事の有無 ²⁾	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	22.1	6.9	15.1	77.9	15.1	62.9
	仕事あり	51.1	42.4	56.5	36.0	53.6	68.3	50.1	100.0	18.3	7.7	10.7	81.7	20.1	61.6
	(再掲) 正規	16.1	20.4	34.0	14.1	14.8	25.4	12.3	100.0	28.0	14.7	13.3	72.0	23.8	48.2
	(再掲) 非正規	24.2	13.8	17.2	12.2	27.1	34.1	25.5	100.0	12.6	4.9	7.6	87.4	21.2	66.2
	仕事なし	48.4	56.4	43.2	62.5	46.2	31.7	49.7	100.0	25.7	6.2	19.5	74.3	9.8	64.5

注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦である。
 2) 妻の仕事の有無は、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第2回の状況である。
 3) 「出生あり」には、夫、妻双方から回答を得る以前の出生を含まない。
 4) 総数には、妻の仕事の有無不詳を含む。

図4 この2年間に出生ありだった妻の仕事の有無



注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦である。
 2) 「出生あり」には、夫、妻双方から回答を得る以前の出生を含まない。
 3) 妻の仕事の有無は、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第2回の状況である。

(4) 妻の職場における育児休業制度の有無別にみたこの1年間の出生の状況

妻の職場に育児休業の「制度あり」では 14.3%、「制度なし」では 5.2%に子どもが生まれている。

第1回からの夫婦で、第1回から第2回の間には子どもが生まれておらず、第2回に妻が会社等に勤めていた夫婦について、第2回の妻の職場の利用可能な育児休業制度の有無別に、この1年間の出生の状況をみると、妻の職場に、育児休業の「制度あり」では 14.3%、「制度なし」では 5.2%に子どもが生まれている。「制度あり」のうち、制度を「利用しやすい雰囲気がある」では 18.3%に子どもが生まれている。(表11)

表11 第2回の妻の職場の育児休業制度の有無別にみたこの1年間の出生の状況

(単位：%)

	総数	この1年間の出生の状況									
		出生あり				出生なし					
		総数	第1子	第2子	第3子以降	総数	子どもなし	子ども1人	子ども2人以上		
第2育児休業の妻の職場の有無	総数	(100.0)	100.0	9.3	3.3	4.3	1.7	90.7	20.5	20.4	49.7
	制度あり	(36.8)	100.0	14.3	4.7	7.3	2.4	85.7	18.5	21.8	45.4
	利用しやすい雰囲気がある	(17.4)	100.0	18.3	5.0	10.0	3.3	81.7	14.9	24.5	42.3
	利用しにくい雰囲気がある	(7.4)	100.0	9.8	3.9	3.9	2.0	90.2	26.5	20.6	43.1
	どちらとも言えない	(9.5)	100.0	13.7	6.1	6.1	1.5	86.3	18.3	20.6	47.3
	制度なし	(33.3)	100.0	5.2	2.2	2.4	0.7	94.8	21.0	22.1	51.6
	制度があるかわからない	(22.5)	100.0	6.8	2.6	1.9	2.3	93.2	23.5	15.8	54.0

注:1)集計対象は、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られており、第1回から第2回の間は出生なしで、第2回に妻が会社等に勤めていた夫婦である。

2)育児休業制度の有無とは、利用可能な制度があるかどうかをいう。

3)総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。

(5) 夫婦の親の子育て支援の有無別にみた第2子以降の出生の状況

「親の支援あり」では 24.5%、「親の支援なし」では 22.3%の夫婦に第2子以降が生まれている。

第1回で小学校入学前の子どもがいた夫婦について、夫婦の親の子育て支援の有無別にこの2年間の第2子以降の出生の状況をみると、「親の支援あり」では 24.5%、「親の支援なし」では 22.3%に子どもが生まれている。

また、妻が「仕事あり」のうち、「親の支援あり」では 23.8%、「親の支援なし」では 19.2%に子どもが生まれている。(表12)

表12 第1回の妻の仕事の有無、第1回の夫婦の親の子育て支援の有無別にみたこの2年間の出生の状況

(単位：%)

	総数	この2年間の出生の状況							
		出生あり			出生なし				
		総数	第2子	第3子以降	総数	1人	2人以上		
第1第1回の妻の仕事の有無	総数	(100.0)	100.0	21.1	15.3	5.8	78.9	21.7	57.2
	親の支援あり	(15.6)	100.0	24.5	18.3	6.2	75.5	23.9	51.6
	親の支援なし	(62.4)	100.0	22.3	15.9	6.4	77.7	20.6	57.1
	仕事あり	(100.0)	100.0	19.0	13.1	5.9	81.0	20.8	60.3
	親の支援あり	(23.7)	100.0	23.8	16.9	6.9	76.2	23.0	53.3
	親の支援なし	(53.5)	100.0	19.2	13.1	6.1	80.8	20.7	60.2
	仕事なし	(100.0)	100.0	22.4	16.7	5.6	77.6	22.3	55.3
	親の支援あり	(10.2)	100.0	25.6	20.8	4.8	74.4	24.4	50.0
	親の支援なし	(68.8)	100.0	23.7	17.2	6.5	76.3	20.7	55.6

注:1)集計対象は、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られ、第1回に小学校入学前の子どもありの夫婦である。

2)夫婦の親の子育て支援の有無とは、夫や妻の父又は母が、平日の日中に、小学校入学前の子どもの世話をしているかどうかをいう。

3)総数には、妻の仕事の有無不詳、親の子育て支援の有無不詳を含む。

(6) 出生の状況別にみた妻の就業状況の変化

子どもが生まれた妻では 26.2%、子どもが生まれていない妻では 43.5%が、同一就業を継続している。

第1回からの夫婦のこの2年間の出生の状況、及び第2回からの夫婦のこの1年間の出生の状況別に、妻の就業状況の変化をみると、「出生あり」では、出産前後の「同一就業継続」の割合は 26.2%、「出生なし」では、この1年間の「同一就業継続」の割合は 43.5%となっている。

出生順位別にみると、「第1子」では、「同一就業継続」が 29.5%、「第2子以降」では、「無職継続」が 60.0%となっている。

「出生なし」のうち、「子どもなし」では、「同一就業継続」が 56.6%となっている。
(表13、図5)

表13 この2年間の出生の状況、出生順位、子どもの有無別にみた就業状況の変化

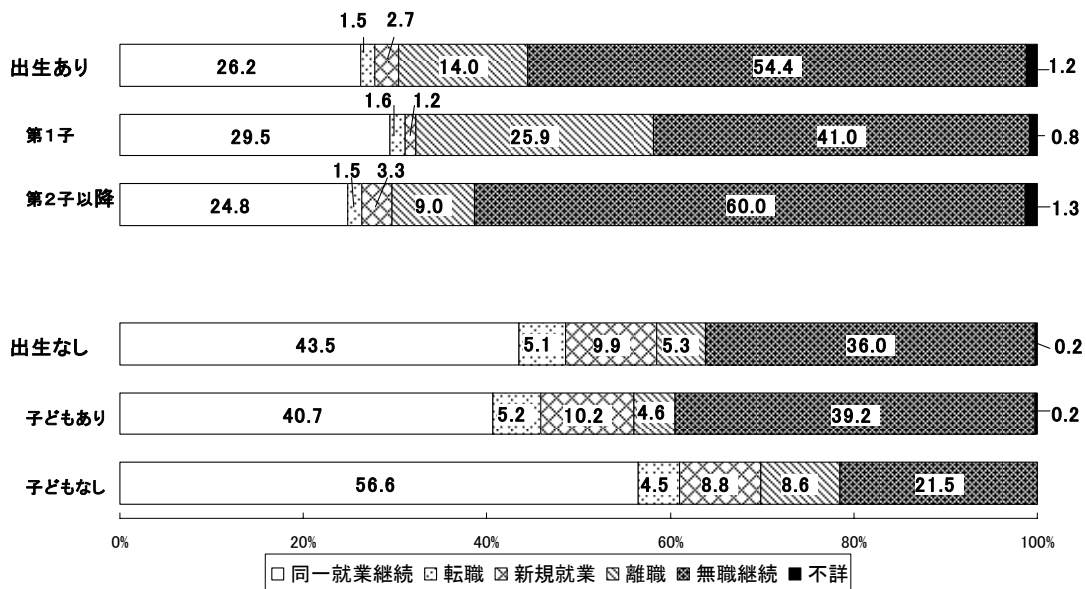
	総数	同一就業継続	(再掲)		転職	新規就業	離職	無職継続	不詳	
			正規	非正規						
出生あり	(100.0)	100.0	26.2	15.0	4.6	1.5	2.7	14.0	54.4	1.2
第1子	(29.5)	100.0	29.5	21.9	4.0	1.6	1.2	25.9	41.0	0.8
第2子以降	(70.5)	100.0	24.8	12.2	4.8	1.5	3.3	9.0	60.0	1.3
出生なし	(100.0)	100.0	43.5	12.9	20.7	5.1	9.9	5.3	36.0	0.2
子どもあり	(82.0)	100.0	40.7	11.0	19.5	5.2	10.2	4.6	39.2	0.2
子どもなし	(18.0)	100.0	56.6	21.2	26.2	4.5	8.8	8.6	21.5	-

注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦の妻、及び第2回、第3回ともに双方から回答を得られている夫婦の妻である。

2) 「出生あり」には、夫、妻双方から回答を得る以前の出生を含まない。

3) 妻の就業状況の変化は、「出生あり」は出産前後の、「出生なし」は第2回から第3回にかけての就業状況の変化である。

図5 この2年間の出生の状況、出生順位、子どもの有無別にみた就業状況の変化



注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦の妻、及び第2回、第3回ともに双方から回答を得られている夫婦の妻である。

2) 「出生あり」には、夫、妻双方から回答を得る以前の出生を含まない。

3) 妻の就業状況の変化は、「出生あり」は出産前後の、「出生なし」は第2回から第3回にかけての就業状況の変化である。

2 夫の状況の変化（第1回から第2回）とこの1年間の出生の状況

（1）夫の仕事時間（通勤時間を含む）の増減別にみた状況

夫の一日当たりの仕事時間が「10 時間以上」であった夫婦のうち、仕事時間が増加した場合で 22.0%、減少した場合で 28.4%に子どもが生まれている。

第1回からの夫婦で、第1回に夫、妻ともに子どもが「ほしい」と考えており、第1回から第2回の間には子どもが生まれていない夫婦について、第1回から第2回にかけての夫の一日当たりの仕事時間（通勤時間を含む）の増減別に、この1年間の出生の状況をみると、仕事時間が「8 時間未満」であった夫婦は、「増加」では 27.1%、「減少」では 14.3%に子どもが生まれている。

また、「10 時間以上」であった夫婦は、「増加」では 22.0%、「減少」では 28.4%に子どもが生まれている。（表 1 4）

表 1 4 第1回から第2回の夫の一日当たりの仕事時間の増減別にみたこの1年間の出生の状況

（単位：％）

	総数	この1年間の出生の状況									
		出生あり						出生なし			
		総数	第1子	第2子	第3子以降	総数	子どもなし	子ども1人	子ども2人以上		
第1回から第2回までの夫の一日当たりの仕事時間の増減	総数	(100.0)	100.0	26.4	6.6	17.5	2.3	73.6	21.2	33.0	19.3
	増加	(36.3)	100.0	24.0	7.7	13.9	2.5	76.0	24.9	31.4	19.7
	減少	(36.9)	100.0	26.6	5.4	20.2	1.1	73.4	20.7	32.8	19.9
	変化なし	(14.9)	100.0	26.7	8.7	15.3	2.7	73.3	20.0	32.0	21.3
	8時間未満	(10.3)	100.0	26.0	8.7	14.4	2.9	74.0	19.2	42.3	12.5
	増加	(8.4)	100.0	27.1	10.6	14.1	2.4	72.9	17.6	42.4	12.9
	減少	(0.7)	100.0	14.3	-	14.3	-	85.7	-	57.1	28.6
	変化なし	(0.2)	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-
	8～10時間未満	(36.0)	100.0	24.2	7.7	15.2	1.4	75.8	23.1	30.6	22.0
	増加	(15.7)	100.0	24.1	8.9	13.9	1.3	75.9	27.2	27.8	20.9
	減少	(10.3)	100.0	23.1	5.8	17.3	-	76.9	19.2	30.8	26.9
	変化なし	(7.8)	100.0	24.1	8.9	12.7	2.5	75.9	21.5	34.2	20.3
	10時間以上	(48.5)	100.0	27.2	5.5	19.2	2.5	72.8	21.3	32.1	19.4
	増加	(12.2)	100.0	22.0	4.1	13.8	4.1	78.0	26.8	28.5	22.8
	減少	(25.9)	100.0	28.4	5.4	21.5	1.5	71.6	21.8	33.0	16.9
	変化なし	(6.8)	100.0	30.4	8.7	18.8	2.9	69.6	15.9	30.4	23.2

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られ、第1回に夫、妻ともに子どもが「ほしい」と考えており、第1回から第2回の間は出生なしで、第1回、第2回とも夫に仕事ありの夫婦である。

2)総数には、第1回の夫の一日当たりの仕事時間不詳、仕事時間の増減不詳を含む。

(2) 夫の家事・育児時間の増減別にみた状況

夫の休日の家事・育児時間が増加した場合 30.4%、減少した場合 20.2%に子どもが生まれている。

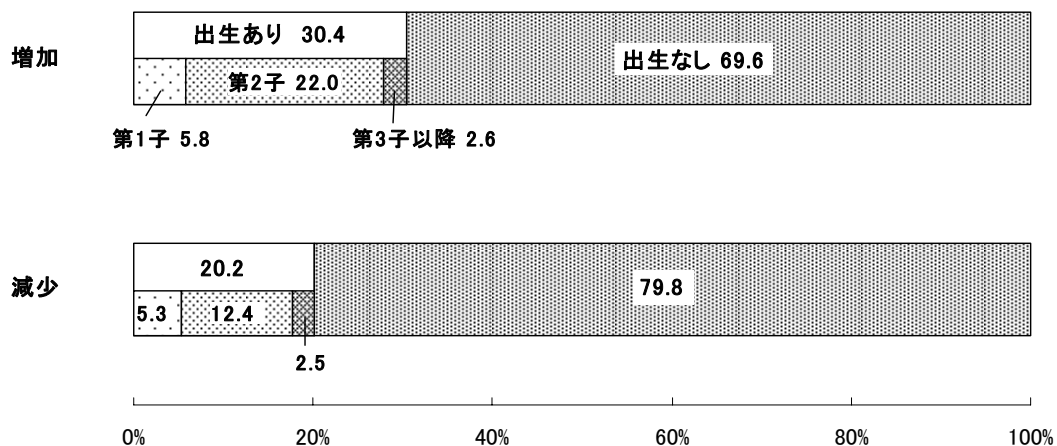
第1回からの夫婦で、第1回で夫、妻ともに子どもが「ほしい」と考えており、第1回から第2回の間には子どもが生まれていない夫婦について、第1回から第2回にかけての夫の家事・育児時間(休日)の増減別に、この1年間の出生の状況を見ると、夫の家事・育児時間が「増加」では30.4%、「減少」では20.2%に子どもが生まれている(表15、図6)。

表15 第1回から第2回にかけての夫の家事・育児時間の増減別にみたこの1年間の出生の状況

		総数		この1年間の出生の状況							
				出生あり				出生なし			
				総数	第1子	第2子	第3子以降	総数	子どもなし	子ども1人	子ども2人以上
第1・2回からの増減	総数	(100.0)	100.0	26.0	6.9	17.0	2.1	74.0	21.6	33.5	18.9
	増加	(36.3)	100.0	30.4	5.8	22.0	2.6	69.6	16.0	34.3	19.4
	減少	(37.6)	100.0	20.2	5.3	12.4	2.5	79.8	17.9	37.4	24.5
	変化なし	(16.7)	100.0	30.7	11.9	17.6	1.1	69.3	35.8	25.6	8.0
第2育児時間の夫間(休日)の家事・	家事・育児時間なし	(8.0)	100.0	21.4	20.2	1.2	-	78.6	61.9	10.7	6.0
	2時間未満	(23.2)	100.0	22.5	16.4	5.7	0.4	77.5	48.8	18.9	9.8
	2～4時間未満	(17.6)	100.0	25.9	5.9	17.3	2.7	74.1	15.7	37.8	20.5
	4～6時間未満	(13.6)	100.0	25.2	0.7	21.7	2.8	74.8	2.8	45.5	26.6
	6～8時間未満	(6.9)	100.0	30.1	-	27.4	2.7	69.9	2.7	49.3	17.8
	8時間以上	(26.3)	100.0	30.7	0.4	26.7	3.6	69.3	2.5	40.1	26.7

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られ、第1回に夫、妻ともに子どもが「ほしい」と考えており、第1回から第2回の間は出生なしの同居夫婦である。
2)総数には、夫の家事・育児時間の増減不詳、家事・育児時間不詳を含む。

図6 第1回から第2回にかけての夫の家事・育児時間の増減別にみたこの1年間の出生の状況



注：集計対象は、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られ、第1回に夫、妻ともに子どもが「ほしい」と考えており、第1回から第2回の間は出生なしの同居夫婦である。

3 子どもが生まれた夫婦の出生前後の変化

(1) 出生前後の夫の家事・育児時間の増減

夫の家事・育児時間は、第1子出生前後で、76.8%が増加し、3.2%が減少している。

第1回からの夫婦のうちこの2年間に子どもが生まれた夫婦、及び第2回からの夫婦のうちこの1年間に子どもが生まれた夫婦について、出生前後の「夫の家事・育児時間の増減(休日)」をみると、「増加」50.9%、「減少」27.5%となっている。

出生順位別にみると、「増加」の割合は、「第1子」では、76.8%、「第2子」では39.8%、「第3子以降」では37.4%となっている。また、「減少」の割合は、「第1子」では3.2%、「第2子」では36.7%、「第3子以降」では43.6%となっている。(表16、図7)

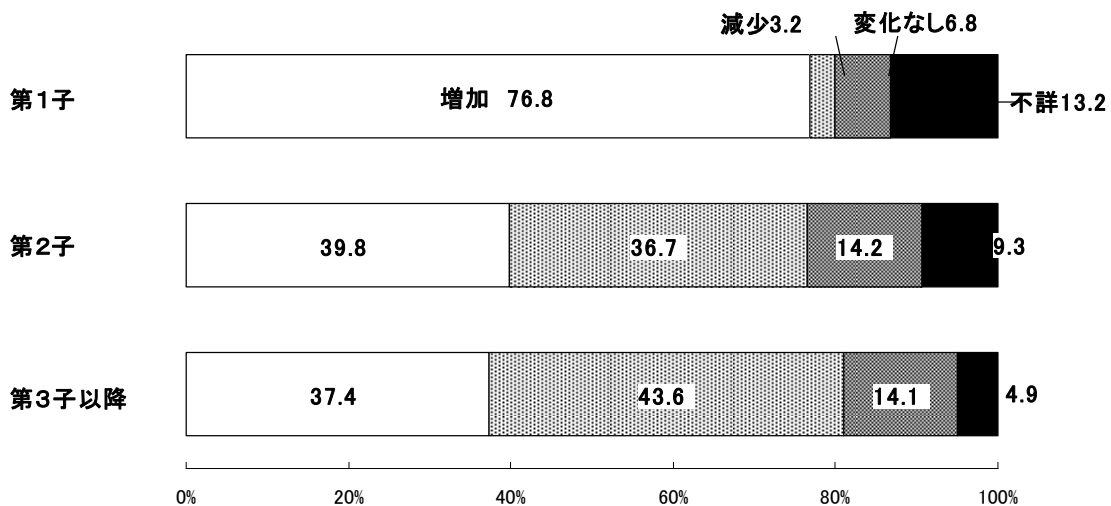
表16 出生順位別にみた出生前後の夫の家事・育児時間の増減(休日)

(単位：%)

		総数	増加	減少	変化なし	不詳	
出生 順位	総数	(100.0)	100.0	50.9	27.5	11.8	9.7
	第1子	(31.3)	100.0	76.8	3.2	6.8	13.2
	第2子	(50.5)	100.0	39.8	36.7	14.2	9.3
	第3子以降	(18.2)	100.0	37.4	43.6	14.1	4.9

注：集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回ともに双方から回答を得られている夫婦で、この2年間に子どもが生まれた同居夫婦である。ただし、双方から回答を得る以前の出生については除く。

図7 出生前後の夫の家事・育児時間の増減(休日)



注：集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回ともに双方から回答を得られている夫婦で、この2年間に子どもが生まれた同居夫婦である。ただし、双方から回答を得る以前の出生については除く。

(2) 出生前後の希望子ども数の増減

第2子出生前に希望子ども数を3人としていた夫、妻の30%以上が、第2子出生後に希望子ども数を2人へと減少させている。

第1回からの夫婦のうちこの2年間に子どもが生まれた夫婦、及び第2回からの夫婦のうちこの1年間に子どもが生まれた夫婦について、出生前後の希望子ども数をみると、第2子出生前に希望子ども数が3人の場合、出生後も変わらず3人であるのは、夫61.9%、妻64.2%、出生後2人へ減少しているのは、夫30.1%、妻30.6%となっている(表17)。

表17 第1子及び第2子出生前後の夫及び妻の希望子ども数

(単位：%)

		出生後の希望子ども数					
		総数	1人	2人	3人	4人以上	
出生 順位、 出生前 の希望 子ども 数	夫						
	第1子	(100.0)	100.0	14.4	57.9	23.9	1.8
	0人	(1.4)	100.0	25.0	50.0	25.0	-
	1人	(7.7)	100.0	50.0	45.5	-	-
	2人	(61.1)	100.0	13.2	72.4	13.2	-
	3人	(21.1)	100.0	3.3	23.3	63.3	5.0
	4人以上	(1.8)	100.0	20.0	-	40.0	40.0
	第2子	(100.0)	100.0	・	67.0	25.9	4.0
	1人	(4.2)	100.0	・	94.7	5.3	-
	2人	(64.6)	100.0	・	82.7	12.6	2.0
	3人	(24.8)	100.0	・	30.1	61.9	3.5
	4人以上	(3.3)	100.0	・	26.7	33.3	40.0
	妻						
	第1子	(100.0)	100.0	15.8	60.4	23.2	0.4
	0人	(0.4)	100.0	100.0	-	-	-
	1人	(8.4)	100.0	66.7	29.2	4.2	-
	2人	(62.1)	100.0	10.7	79.7	9.6	-
	3人	(21.8)	100.0	4.8	21.0	71.0	1.6
4人以上	(0.7)	100.0	-	50.0	50.0	-	
第2子	(100.0)	100.0	・	70.5	26.6	2.2	
1人	(3.3)	100.0	・	93.3	6.7	-	
2人	(63.5)	100.0	・	88.6	10.4	-	
3人	(29.5)	100.0	・	30.6	64.2	5.2	
4人以上	(1.1)	100.0	・	40.0	20.0	40.0	

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦で、この2年間に第1子又は第2子が生まれた夫婦である。ただし、双方から回答を得る以前の出生については除く。

2)総数には、希望子ども数不詳を含む。

4 仕事をしてきた妻の出産後の就業継続の有無

(1) 出生順位別にみた状況

仕事をしてきた妻は、仕事が正規の場合 74.0%、非正規の場合 34.5%が出産後も同一就業を継続している。

第1回からの夫婦のうちこの2年間に子どもが生まれた夫婦、及び第2回からの夫婦のうちこの1年間に子どもが生まれた夫婦の、出産前に仕事ありであった妻について、出産後において「同一就業継続」であった割合は62.8%となっている。

出生順位別にみると、「第1子」では51.7%、「第2子以降」では70.3%が「同一就業継続」となっている。

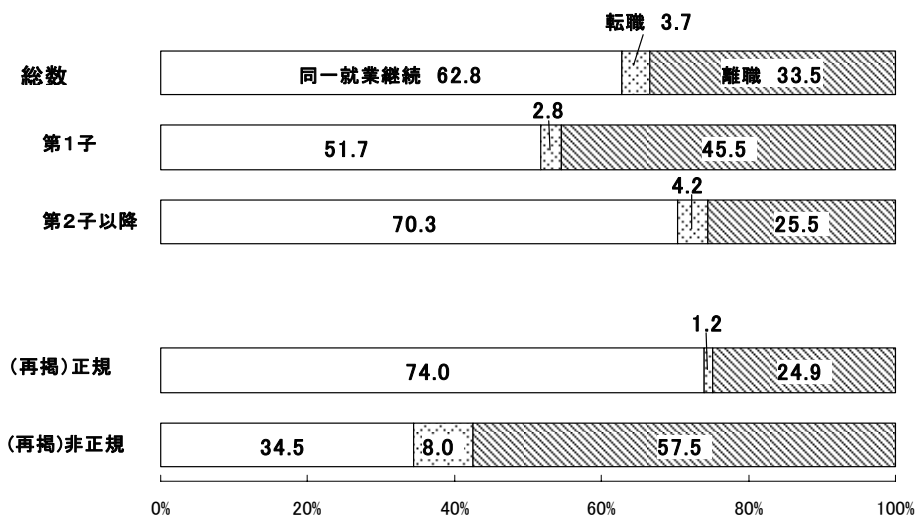
就業形態別にみると「正規」では74.0%、「非正規」では34.5%が「同一就業継続」となっている。(表18、図8)

表18 出生順位別にみた就業継続の有無

		(単位：%)				
		総数	同一就業継続	転職	離職	
出生順位	総数	(100.0)	100.0	62.8	3.7	33.5
	第1子	(40.3)	100.0	51.7	2.8	45.5
	第2子以降	(59.7)	100.0	70.3	4.2	25.5
	(再掲) 正規	(48.7)	100.0	74.0	1.2	24.9
	(再掲) 非正規	(31.8)	100.0	34.5	8.0	57.5

注：集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦のうち、この2年間に子どもが生まれ、出産前に仕事ありであった妻である。ただし、夫、妻双方から回答を得る以前の出生は除く。

図8 出生順位別にみた就業継続の有無



注：集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦のうち、この2年間に子どもが生まれ、出産前に仕事ありであった妻である。ただし、夫、妻双方から回答を得る以前の出生は除く。

(2) 2年前の夫婦の家庭観別にみた状況

夫、妻とも「世帯の収入」に関し「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」を築きたいと考えていた夫婦では、80.0%の妻が出産後も同一就業を継続している。

第1回からの夫婦のうちこの2年間に子どもが生まれた夫婦の、出産前に仕事ありであった妻について、第1回の夫婦の家庭観の組み合わせ別に、出産前後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」の割合は、「世帯の収入」に関しては、夫、妻ともに「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」では80.0%、夫、妻ともに「夫が主として責任をもつ家庭」では48.9%となっている。

また、「家事」に関しては、「同一就業継続」の割合は、夫、妻ともに「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」では72.6%、夫、妻ともに「妻が主として責任をもつ家庭」では54.1%となっている。(表19、図9)

表19 第1回の夫婦の家庭観別にみた妻の就業継続の有無

(単位：%)

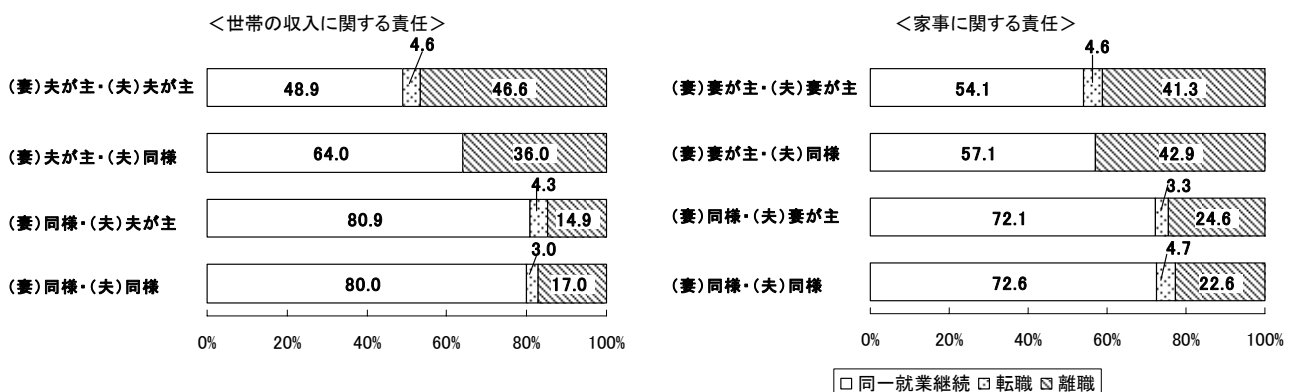
		総数	同一就業継続	転職	離職	
第1回の夫婦の家庭観	<世帯の収入に関する責任>	(100.0)	100.0	64.6	4.0	31.4
	(妻)夫が主・(夫)夫が主	(40.3)	100.0	48.9	4.6	46.6
	(妻)夫が主・(夫)同様	(7.7)	100.0	64.0	-	36.0
	(妻)同様・(夫)夫が主	(14.5)	100.0	80.9	4.3	14.9
	(妻)同様・(夫)同様	(30.8)	100.0	80.0	3.0	17.0
	<家事に関する責任>	(100.0)	100.0	64.6	4.0	31.4
	(妻)妻が主・(夫)妻が主	(33.5)	100.0	54.1	4.6	41.3
	(妻)妻が主・(夫)同様	(8.6)	100.0	57.1	-	42.9
	(妻)同様・(夫)妻が主	(18.8)	100.0	72.1	3.3	24.6
	(妻)同様・(夫)同様	(32.6)	100.0	72.6	4.7	22.6

注：1)集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られ、この2年間に子どもが生まれた夫婦の、出産前に仕事ありであった妻である。

2)「夫が主」とは「夫が主として責任をもつ家庭」、「妻が主」とは「妻が主として責任をもつ家庭」、「同様」とは「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」をいう。

3)世帯の収入に関する責任、家事に関する責任には、家庭観のその他の組み合わせを含む。

図9 第1回の夫婦の家庭観別にみた妻の就業継続の有無



注：1)集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られ、この2年間に子どもが生まれた夫婦の、出産前に仕事ありであった妻である。

2)「夫が主」とは「夫が主として責任をもつ家庭」、「妻が主」とは「妻が主として責任をもつ家庭」、「同様」とは「夫妻いずれも同様に責任をもつ家庭」をいう。

(3) 妻の職場の育児休業制度の有無別にみた状況

妻の職場に育児休業制度があり利用しやすい雰囲気がある場合、85.4%の妻が出産後も同一就業を継続している。

第1回からの夫婦及び第2回からの夫婦のうち、この1年間に子どもが生まれた夫婦の、第2回に会社等に勤めていた妻について、職場の利用可能な育児休業制度の有無別に、出産後における「同一就業継続」の割合をみると、育児休業の「制度あり」では74.2%、「制度なし」では27.6%となっている。また、「制度あり」のうち「利用しやすい雰囲気がある」では85.4%、「利用しにくい雰囲気がある」では60.0%となっている。

さらに、就業形態別にみると、「制度あり」のうち「正規」では77.8%、「非正規」では50.0%が「同一就業継続」となっている。(表20、図10)

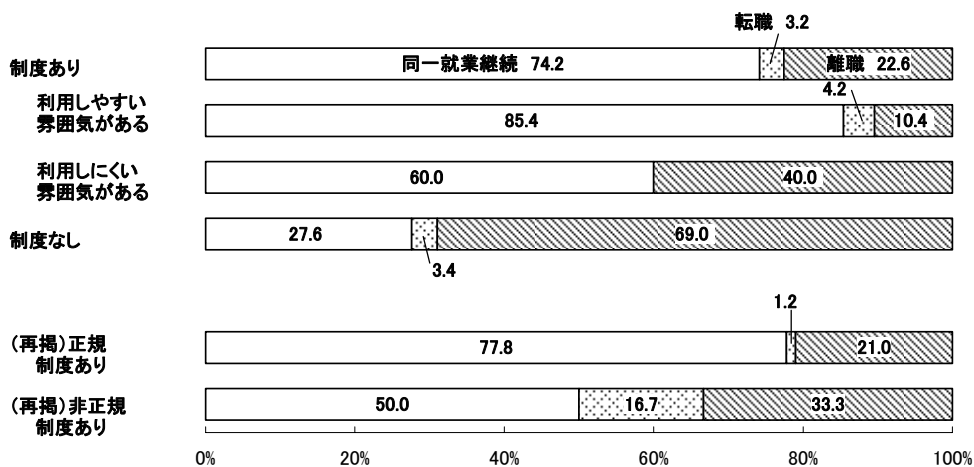
表20 妻の職場の育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

(単位：%)

		総数	同一就業 継続	転職	離職	
第2回妻の職場の育児休業制度の有無	総数	(100.0)	100.0	57.6	3.8	38.6
	制度あり	(58.9)	100.0	74.2	3.2	22.6
	利用しやすい雰囲気がある	(30.4)	100.0	85.4	4.2	10.4
	利用しにくい雰囲気がある	(12.7)	100.0	60.0	-	40.0
	どちらも言えない	(14.6)	100.0	65.2	4.3	30.4
	制度なし	(18.4)	100.0	27.6	3.4	69.0
	制度があるかないかわからない	(15.8)	100.0	24.0	4.0	72.0
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	75.0	1.0	24.0
	制度あり	(81.0)	100.0	77.8	1.2	21.0
	制度なし	(7.0)	100.0	57.1	-	42.9
(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	27.6	8.6	63.8	
制度あり	(20.7)	100.0	50.0	16.7	33.3	
制度なし	(37.9)	100.0	18.2	4.5	77.3	
制度があるかないかわからない	(31.0)	100.0	16.7	5.6	77.8	

- 注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦で、この1年間に子どもが生まれた、第2回に会社等に勤めていた妻である。
 2) 育児休業制度の有無とは、利用可能な制度があるかどうかをいう。
 3) 総数には、育児休業制度の有無不詳、利用に当たっての雰囲気不詳を含む。

図10 妻の職場の育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無



- 注：1) 集計対象は、第1回から第3回まで双方から回答を得られている夫婦、及び第2回、第3回とも双方から回答を得られている夫婦のうち、この1年間に子どもが生まれた、第2回に会社等に勤めていた妻である。
 2) 育児休業制度の有無とは、利用可能な制度があるかどうかをいう。

Ⅲ 独身者の就業の状況

(1) 就業の状況

男の6.0%、女の4.1%が、この2年間仕事についていない。

第1回からの独身者（この2年間、学校に在学していたことがある者を除く）について、年齢階級別にこの2年間の就業の状況をみると、転職せずに仕事を続けている（第3回仕事あり、転職なし）者は、男75.3%、女70.5%となっている。

また、2年間仕事についていない（第3回仕事なし、就業経験なし）者は、男6.0%、女4.1%となっている。（表21、図11）

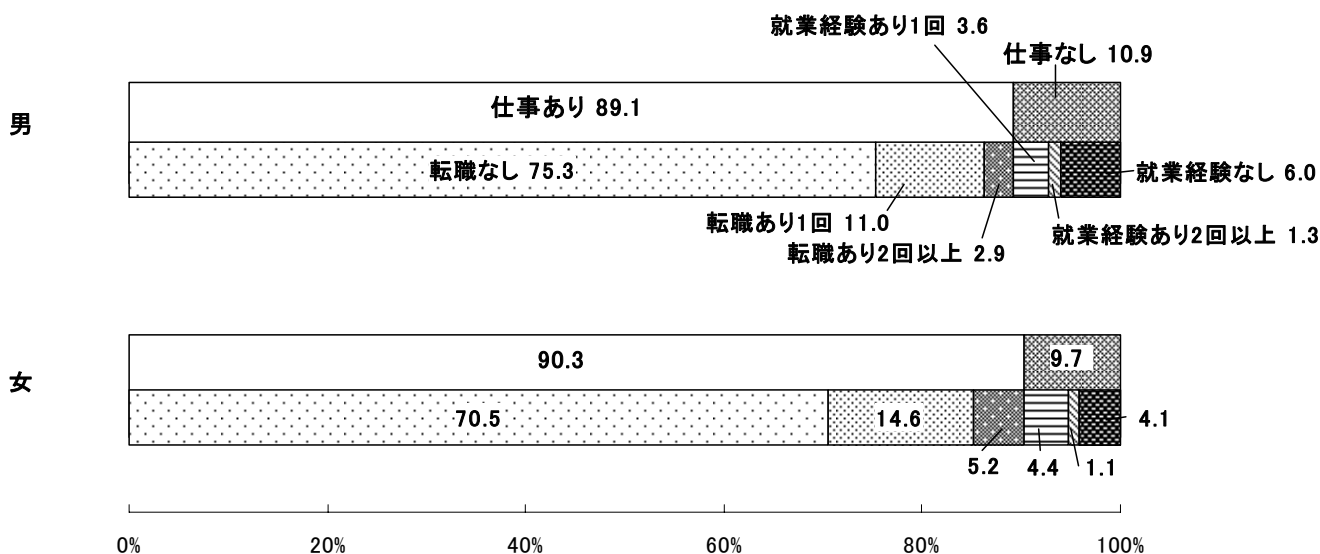
表21 性、年齢階級別にみたこの2年間の就業の状況

(単位：%)

		総数	第3回仕事あり				第3回仕事なし				
			転職なし	転職あり		就業経験あり	就業経験なし	就業経験あり		就業経験なし	
				1回	2回以上			1回	2回以上		
第3回の年齢階級	男	(100.0)	100.0	89.1	75.3	11.0	2.9	10.9	3.6	1.3	6.0
	25歳以下	(23.9)	100.0	87.5	68.4	15.0	4.2	12.5	5.3	1.3	5.9
	26～30歳	(40.6)	100.0	90.0	76.3	11.0	2.6	10.0	2.9	1.4	5.7
	31～35歳	(30.9)	100.0	89.1	78.4	8.2	2.6	10.9	3.5	1.0	6.4
	36歳以上	(4.6)	100.0	90.2	80.9	8.0	1.3	9.8	2.2	1.3	6.2
女	25歳以下	(100.0)	100.0	90.3	70.5	14.6	5.2	9.7	4.4	1.1	4.1
	26～30歳	(30.5)	100.0	91.3	68.5	17.0	5.9	8.7	4.7	1.1	2.8
	31～35歳	(40.5)	100.0	90.2	70.8	14.0	5.3	9.8	4.8	1.3	3.7
	36歳以上	(25.8)	100.0	89.8	72.1	13.3	4.5	10.2	3.4	1.0	5.8
	36歳以上	(3.2)	100.0	86.7	72.0	11.9	2.8	13.3	4.2	0.7	8.4

注：集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者で、結婚をしていない者である。ただし、この2年間、学校に在学していたことがある者を除く。

図11 性、年齢階級別にみたこの2年間の就業の状況



注：集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者で、結婚をしていない者である。ただし、この2年間、学校に在学していたことがある者を除く。

(2) 就業の状況別にみた1年前の職業観

働くことは「社会人の責任・義務」と考えていた者の割合は、転職をせず仕事を続けている者では男36.8%、女37.7%、2年間仕事についていない者では男21.4%、女17.2%。

第1回からの独身者（この2年間、学校に在学していたことがある者を除く）について、この2年間の就業の状況別に第2回の職業観（複数回答）をみると、転職せずに仕事を続けている（第3回仕事あり、転職なし）者と2年間仕事についていない（第3回仕事あり、就業経験なし）者の比較において、「社会人の責任・義務」の割合は、転職せずに仕事を続けている者では男36.8%、女37.7%、2年間仕事についていない者では男21.4%、女17.2%と、両者の差が最も大きくなっている。次いで差が大きいのは「趣味・娯楽等の費用を得るため」であり、転職せずに仕事を続けている者では男40.9%、女43.9%、2年間仕事についていない者では男29.2%、女27.4%となっている。（表22、図12）

表22 性、この2年間の就業の状況別にみた第2回の職業観（複数回答）

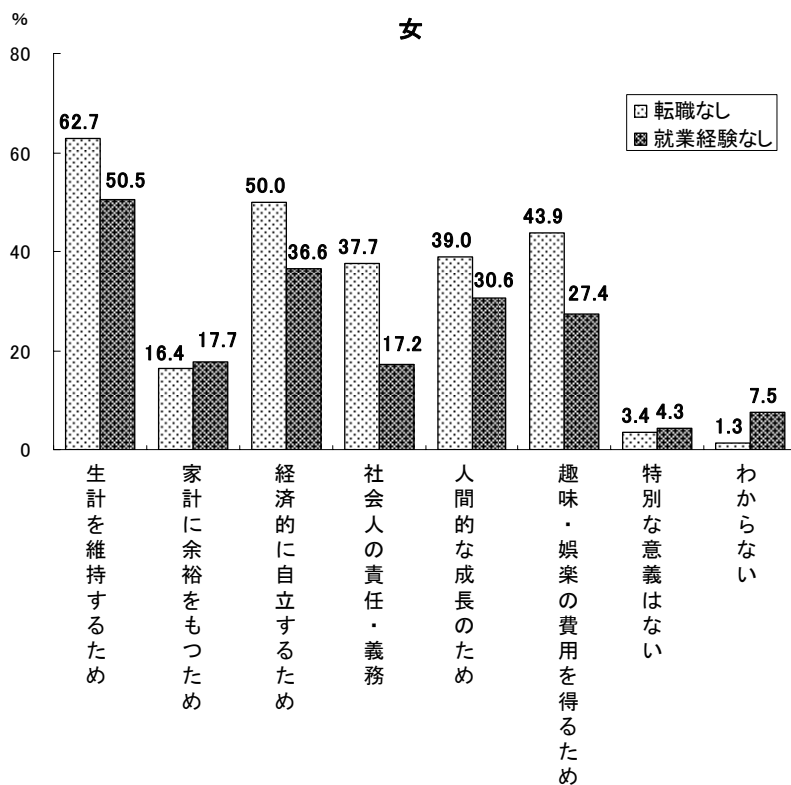
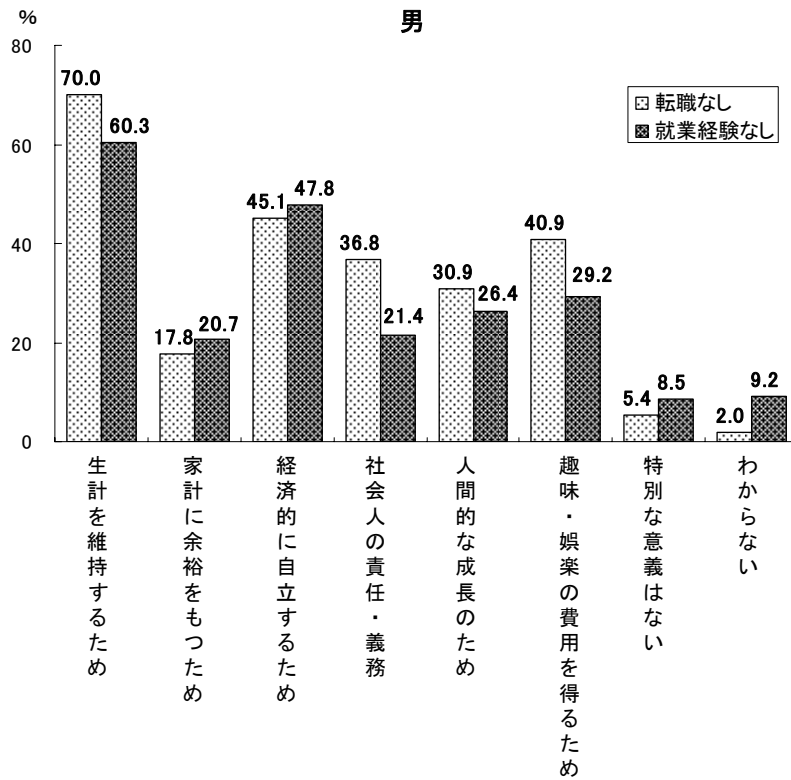
(単位：%)

	総数	第3回仕事あり		第3回仕事なし				
		転職なし	転職あり		就業経験あり	就業経験なし		
第2回の職業観（複数回答）	男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	生計を維持するため	68.4	69.6	70.0	67.3	59.0	57.3	60.3
	家計に余裕をもつため	18.0	18.0	17.8	18.9	18.3	15.4	20.7
	経済的に自立するため	45.3	44.9	45.1	44.2	48.1	48.5	47.8
	社会人の責任・義務	34.6	35.9	36.8	31.1	24.1	27.4	21.4
	社会に貢献するため	11.3	11.4	11.6	10.4	10.6	9.5	11.5
	社会に認められるため	15.8	16.2	16.2	16.1	13.1	11.6	14.2
	人間的な成長のため	30.2	30.8	30.9	30.3	25.6	24.5	26.4
	働くことが生きがい	7.2	7.4	7.4	7.2	6.2	6.2	6.1
	能力や専攻・資格を生かすため	14.1	14.3	13.9	16.7	12.1	12.4	11.9
	趣味・娯楽等の費用を得るため	39.8	40.6	40.9	39.0	33.4	38.6	29.2
	特別な意義はない	5.7	5.5	5.4	5.8	7.3	5.8	8.5
	わからない	2.6	2.1	2.0	2.9	6.5	3.3	9.2
	その他	1.2	1.2	0.9	2.6	1.1	-	2.0
女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
生計を維持するため	62.7	63.3	62.7	65.3	57.5	62.7	50.5	
家計に余裕をもつため	16.1	16.0	16.4	14.7	17.5	17.3	17.7	
経済的に自立するため	48.2	49.3	50.0	46.7	38.4	39.8	36.6	
社会人の責任・義務	35.4	36.6	37.7	32.5	25.1	30.9	17.2	
社会に貢献するため	8.7	9.0	9.8	5.9	6.0	8.0	3.2	
社会に認められるため	14.4	14.7	15.4	11.9	11.7	12.4	10.8	
人間的な成長のため	39.1	39.4	39.0	41.1	35.6	39.4	30.6	
働くことが生きがい	8.0	8.2	8.2	8.1	6.9	7.2	6.5	
能力や専攻・資格を生かすため	21.6	22.1	22.4	21.3	16.8	17.3	16.1	
趣味・娯楽等の費用を得るため	43.4	43.9	43.9	44.1	38.2	46.2	27.4	
特別な意義はない	3.6	3.5	3.4	3.9	4.8	5.2	4.3	
わからない	1.6	1.3	1.3	1.3	3.7	0.8	7.5	
その他	1.2	1.2	1.1	1.5	2.1	1.2	3.2	

注:1)集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者で、結婚をしていない者である。ただし、この2年間、学校に在学していたことがある者を除く。

2)男、女には、職業観不詳を含む。

図 1 2 性、この2年間の就業の状況別にみた第2回の職業観



注：集計対象は、第1回独身で第2回、第3回ともに回答を得られている者で、結婚をしていない者である。ただし、この2年間、学校に在学していたことがある者を除く。

参 考

I 結婚の状況

本章では、以下について集計している。
 ・第1回の独身者：第1回調査で独身であり、第2回、第3回ともに回答を得られている者。

	図表番号	集計対象の条件	客体数		対象となる調査票			
			男	女	女性票	男性票	配偶者 (女性用)	配偶者 (男性用)
1 独身者の結婚の状況	表1, 2, 3 注:1)	第1回の独身者	6,405	5,989	○	○		
	表4	「結婚した」は結婚前に仕事ありの者、「結婚していない」は第2回に仕事ありの者	5,323	5,116	○	○		
	表5 図1	調査と調査の間に、結婚及び離婚した者を除く	6,403	5,985	○	○		
2 仕事ありで結婚した女性の就業継続の有無	表6, 図2	この2年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性	/	541	○			
	表7, 図3	第1回に結婚意欲あり 注:2)	/	533	○			

注:1) 表1及び表3の「第1回配偶者の有無」については、第1回から第3回まで回答を得られている女性票 (10,348) 及び男性票 (9,641) を対象としている。

2) 第1回の結婚意欲が、「絶対したい」「なるべくしたい」「どちらとも言えない」「あまりしたくない」のいずれかの者。

II 出生の状況

本章では、以下について集計している。
 ・第1回からの夫婦：第1回から夫婦として調査対象としており、第1回から第3回まで夫、妻双方から回答を得られている夫婦。
 ・第2回からの夫婦：第1回から第2回間に結婚し、第2回から夫婦として調査対象としており、第2回、第3回ともに夫、妻双方から回答を得られている夫婦。

	図表番号	集計対象の条件	客体数			対象となる調査票			
			第1回からの夫婦	第2回からの夫婦	計	女性票	男性票	配偶者 (女性用)	配偶者 (男性用)
1 夫婦の子どもの出生の状況	表8, 9, 10 図4 注:3)	夫婦	3,858	254	4,112	○	○	○	○
	表12	第1回小学校入学前子どもあり	2,796	/	2,796	○	○	○	○
	表13, 図5	妻が女性票	3,675	145	3,820	○			
	表11	第1回-第2回間、出生なしの夫婦							
2 夫の状況の変化(第1回から第2回)とこの1年間の出生の状況	表15, 図6 注:4)	第2回妻が仕事あり(会社勤め)	1,383	/	1,383	○	○	○	○
	表14	夫、妻とも子どもが「ほしい」と考えていた	1,053	/	1,053	○	○	○	○
3 出生前後の変化	表16, 図7 注:4)	第1回、第2回とも夫に仕事あり	1,008	/	1,008	○	○	○	○
	表17	この2年間に出生あり	821	74	895	○	○	○	○
4 出産した妻の就業継続の有無	表18, 19 図8, 9 注:3)	生まれた子は第1子、第2子	664	76	740	○	○	○	○
	表20, 図10	妻が女性票							
		この2年間に出生あり、出生前に仕事あり	325	30	355	○			
		この1年間に出生あり、出生前に仕事あり(会社勤め)	129	29	158	○			

注:3) 表9、表19、図9については、第1回からの夫婦のみを対象としている。

4) 表15、表16、図6、図7については、調査対象となつてから同居している夫婦のみを対象としている。

III 独身者の就業の状況

本章では、以下について集計している。
 ・第1回からの独身者：第1回に独身で、第2回、第3回ともに回答を得られており、結婚をしていない者。
 ただし、この2年間、学校に在学していたことがある者を除く。

	図表番号	集計対象の条件	客体数		対象となる調査票			
			男	女	女性票	男性票	配偶者 (女性用)	配偶者 (男性用)
独身者の就業の状況	表21, 22 図11, 12	第1回からの独身者 (この2年間、学校に在学していたことがある者を除く)	4,931	4,500	○	○		

用語の定義

- 1 「**独身者**」とは、「配偶者なし」と回答した者をいい、未婚、離別、死別は区別していない。
- 2 「**結婚した**」及び「**夫婦**」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない者を含む。
- 3 「**正規**」及び「**非正規**」は次の就業形態をいう。
「正規」 … 正規の職員・従業員
「非正規」 … アルバイト、パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他
なお、これらの就業形態は、勤め先における呼称を基準としている。
- 4 「**同一就業継続**」とは、勤め先、及び就業形態が変わっていないこと、また、自ら行っている事業が変わっていないことをいう。
- 5 「**家庭観**」とは、第1回調査において、「夫妻のいずれが責任をもつ家庭を築きたいと思えますか。」と質問したものである。
- 6 「**子どもなし**」とは、「子ども」欄に記入がなかった者をいう。
- 7 「**子どもをもつ意欲**」とは、第1回調査において、「子どもが（もう1人）欲しいと思えますか。」と質問したものである。
- 8 「**育児休業制度の有無**」とは、「あなたのお勤めの会社等には、あなたの就業形態で利用可能な次の制度はありますか」と質問した時の、育児休業制度についての回答である。
- 9 「**一日当たりの仕事時間**」とは、一週間の就業時間を一週間の就業日数で割った時間と、往復の通勤時間を足したものである。
- 10 「**家事・育児時間**」とは、1日の中で家事や育児に何時間くらい費やしているかを、平日と休日に分けて質問したものである。
- 11 「**希望子ども数**」とは、（すでにいる子どもを含めて）全部で何人の子どもを欲しいかをいう。

- 12 「**職業観**」とは、第2回調査において、働くことに関する考え方を質問したものである。
- 13 「**第1回**」「**第2回**」「**第3回**」とは、それぞれ第1回調査、第2回調査、第3回調査において把握した項目である。
- 14 「**結婚前**」「**結婚後**」とは、それぞれ結婚直前、直後の調査において把握した状況である。
- 15 「**出生(産)前**」「**出生(産)後**」とは、それぞれ出生直前、直後の調査において把握した状況である。
- 16 「**この2年間**」とは、第1回調査から第3回調査までの間のことをいう。また「**この1年間**」とは第2回調査から第3回調査までの間のことをいう。